

糸満盛成氏資料一覧

添付資料 2

No.	種類	年月日	盛成 of 住所	送り主	内 容
1	はがき	昭和19年	水俣町湯之 見昭南館	阿蘇郡内牧町角 万旅館に疎開し ている友人)	疎開先での様子。 「きみの出ている学校は三軒もあるというがぼ くたちの出ている学校は・・・(中略)沖縄に いたときちと登校したことなつかしく思はれ る。またこの戦争がおわったらもとのやうにく らされる時もくるだらう。」
2	絵はがき	昭和19年	水俣町湯之 見昭南館	阿蘇郡内牧町角 万旅館に疎開し ている友人	疎開先での様子。 沖縄から手紙が来たか？桃原の人が何人来てい るか？と尋ねている。
3	はがき	昭和19年ごろ？	不明	球磨郡に疎開し た友人か？	疎開先での様子。
4	絵はがき	昭和19年10月14日	水俣町湯之 見昭南館	阿蘇郡内牧町角 万旅館に疎開し ている友人(盛 成兄とあるので 後輩？)	疎開先での様子。 盛成と他に誰が同じ場所にいるのか尋ねてい る。
5	手紙	昭和19年10月10日 以降		盛成の母、糸満 オト 首里郡桃原町	10・10空襲について。 「十月十日あさの七時に空しゅうがはぢまりま して午後の四時まで那覇わ大変そうどーでし た。ただのこてる家わなみの上神宮や、すこし とびとびのふるい家がのこって居ります。」
6	はがき	昭和19年10月18日 受取	水俣町湯之 見昭南館	阿蘇郡内牧町角 万旅館に疎開し ている1つ年下の 友人	疎開先での様子。
7	はがき	昭和19年10月29日 受取	水俣町湯之 見昭南旅館	阿蘇郡内牧町実 泉屋に疎開して いる友人	疎開先での様子。 高等科で9月27日に阿蘇山に登山した話。
8	手紙	昭和19年11月6日受 取	水俣町湯之 見昭南館	熊本県阿蘇郡内 之牧米屋旅館に 疎開している友 人	疎開先での話。盛成の学校と自分の学校の違い など。
9	絵はがき	昭和19年11月16日	水俣町湯之 見昭南旅館	阿蘇郡内牧町角 万旅館に疎開し ている友人(盛 成兄とあるので 年下？)	疎開先での様子。 あさおという人は母親が迎えに来て母親と帰っ た話。
10	手紙	昭和19年11月24日		盛成の義姉、糸 満サダ	義姉が始めて送った手紙。10・10空襲につい て。盛成の兄、盛章が召集され読谷へ行った事 や、盛成に小包を送ったが戻ってきた事など。 「十月十日沖縄が空しゅうされた事を聞いてた いへん心配したでせうね。那ハはたいへんの被 害を受けたんですけど、首里は何の損害もなく みな無事です。国吉もみんな無事です。泊のを じさん方もみな無事ですよ。」
11	絵はがき	昭和19年12月4日	水俣町湯之 見昭南旅館	阿蘇郡内牧長角 万旅館に疎開し ている友人(盛 成兄とあるので 年下？)	「きみもいっしょうけんめいべんきょうして兵 たいさんになりなさいね。」

12	手紙	昭和19年12月11日	水俣町湯之 見昭南館	盛成之母、糸満 オト 首里郡桃原町	寒さを心配したり、10円送った件、兄に手紙を出すようにといった内容。 「あなたのところわたいへんさむいでそうね。よくからだをたいせつにしなさいよ。私わ一回もあなたのことわゝすれませんよ。」
13	手紙	昭和19年12月27日	水俣町湯之 見昭南館	盛成の姉、糸満 久子 首里郡桃原町	姉久子が最初に送った手紙か？近況。空襲の話。 「あなたの正月前になったら家の事を思ふでせう。でも（ソカイ）したのも御國の為思つて今年からしっかり勉強しなさい。」 「那覇の都会があのお米英の為にやけのが原になってゐますよ。」
14	手紙	昭和19年12月27日	水俣町湯之 見昭南館	盛成の義姉、糸 満サダ	熊本へ行って初めての冬で、寒さが大変だろうと案じている。また、お金を送ったり、足袋を送ったりと、盛成を心配している様子が見られる。 「さむさにもなれたでせうか。沖縄から行ってはじめての寒さですからさぞつらいでせうね。（中略）沖縄にゐた時はさむい時なんか、お顔をあらってからも、又フトンの中へもぐりこんだりなんかしてゐましたねー。」
15	手紙	昭和20年正月以降	水俣町湯之 見昭南館	盛成の義姉、糸 満サダ	近況など。
16	手紙	昭和20年1月27日	水俣町湯之 見昭南館	盛成之母、糸満 オト 首里郡桃原町	正月を迎えた話など。 「あなたのおやにたいする孝行わーチバンからだたいせつに大元気にして。手紙送るのが私わたいへんおもしろいですよセイチャン。又話わ後にのこしますね。母より」
17	はがき	昭和20年1月30	水俣町湯之 見昭南旅館	阿蘇郡内牧町実 泉屋に疎開して いる友人	疎開先での様子。 雪が降ってつららができ、とって食べた話。
18	絵がはき	昭和20年	水俣町湯之 見三笠屋	阿蘇郡内牧町実 泉屋に疎開して いる友人	判読不可
19	絵がはき	昭和20年	水俣町湯之 見三笠屋	阿蘇郡内牧町実 泉屋に疎開して いる友人	疎開先の様子。 中学受験をする人はいるか？と尋ねている。
20	はがき	昭和20年	水俣町葛渡 西方寺	久木之村久木野 国民学校（湯野 児から分散）に 疎開している友 人	疎開先での様子。
21	手紙	昭和20年4月8日	水俣町葛渡 西方寺	熊本県阿蘇郡波 野村檜木野国民 学校で疎開して いる友人	手紙をもらって嬉しかったという話。 「嘉那や儀間は桜と散たか、それとも咲かんたがわからんやあー」というのは受験のことか？ 「はさいよを内地はひさんや」
22	手紙	昭和20年ごろ		球磨郡多良木町 に住む引1つ年 下の友人	近況。沖縄がやられている事を知っている。 「沖縄の決戦しだんだん激しくなってきました。ぼくらも大きくなって沖縄かたきをうたうな。沖縄へ帰るまでがんばってゐましよう。」
23	はがき	昭和20年6月15日以 降	水俣町葛渡 西方寺	水俣町水東国民 学校（湯野児か ら分散）に避難 している友人	「敵米英は物量を頼みにどーどー反攻して来る。遂に我が故郷である沖縄島も遂に玉砕してしまった。」

24	はがき	昭和20年6月26日以降	水俣町葛渡西方寺	水俣町水東国民学校（湯野児から分散）に避難している友人	疎開先での様子。
25	手紙	昭和20年7月30日	水俣町葛渡西方寺	生産増強のため川崎市で働いている（女子挺身隊？）。盛成の年上の友人か？	「我が故郷の沖縄も敵の手に取られ、本当にくやしくてたまりません。きっと此の仇は撃たなければなりません。」
26	手紙	昭和20年8月6日	水俣町葛渡西方寺	生産増強のため川崎市で働いている（女子挺身隊？）。盛成の年上の友人か？	「忘れても忘れられない四月一日敵の鬼畜が我が故郷にどろ足をいれてから早四ヶ月になりました。」 盛ちゃんたちの奉仕作業の意気で兵器を沢山作り、敵艦に体当たりをする特攻隊の神兵さんが望みを叶えてくれる。その時には懐かしい我が家へ帰ろう、などと書かれている。
27	手紙	昭和20年8月16日	水俣町葛渡西方寺	球磨郡多良木町に住む引1つ年下の友人	作業で忙しい。さつまいもをたくさん作っているから盛成に送るという話。空襲が多い。 「セイちゃん、一生に一生懸命に働いて沖縄のかたきを打たうよ。」
28	はがき	昭和20年9月3日	水俣町葛渡西方寺	熊本県阿蘇郡波野村遊雀国民学校 2歳年上の幼なじみ	近況。東京で働いて罹災し、熊本の軍需工場で働いていたが終戦して解散となり、弟妹の居る遊雀に居る、と書かれている。
29	絵がはき	昭和20年9月7日	水俣町葛渡西方寺	阿蘇郡内牧町角万旅館に疎開している友人	疎開先での様子。 「もとは遊んだ町も今は時局は変わってゐます。また光栄の来る時楽しみに日々の暮らしして行きませう。」
30	はがき	昭和20年9月15日	水俣町葛渡西方寺	球磨郡多良木町に住む引1つ年下の友人	疎開先での様子。
31	手紙	昭和20年9月24日	水俣町葛渡	熊本県阿蘇郡波野村檜木野国民学校に疎開している友人	盛成氏と陽という人、2人に宛てた手紙。近況。 「しかし早卒業だが、君等は引き取る人はあるかね。（中略）しかしまあ一生懸命勉強して置けば、後は職が出来る事と思ふ。」とあり、身寄りの無い疎開先での、卒業後の不安な気持ちが読み取れる。
32	手紙	昭和20年10月8日	水俣町葛渡国民学校	波野村檜木野国民学校に疎開している友人	盛成氏の疎開先には、盛成他4名の高等科2年生がいるらしく、4人からも便りしてくれるように、と書かれている。
33	はがき	昭和20年10～12月頃	水俣町葛渡国民学校	久木之村久木野国民学校（湯野児から分散）に疎開している友人	疎開先での様子。
34	はがき	昭和20年10月30日	水俣町葛渡国民学校	熊本県阿蘇郡波野村遊雀国民学校にいる2歳年上の幼なじみ	炊事の手伝いをしている。 「屋比久の柴春さんが美代ちゃんの面会に来て居りましたよ。柴春達も開散（ママ）になったさうですよ。戦のまけた国はほんとにみぢめですわね。」
35	はがき	昭和20年12月18日	水俣町葛渡国民学校	熊本県阿蘇郡波野村遊雀国民学校にいる親戚	「さびしい事もあらう。苦しい事もあらうが、すべて辛抱して不平を言はず、先生方や寮母の御教をよく守り、お友達と仲良くし、心身の修練に努めればならぬ。」
36	はがき	昭和21年1月9日	水俣町葛渡国民学校	大阪市西淀川区に住む2歳年上の幼なじみ	近況。遊雀国民学校から大阪へ引越した。「引率知念のご家族様や、桃原の人にも宜しく伝えてね。」とある。

37	はがき	昭和21年2月	水俣町葛渡 国民学校	大阪市西淀川区 に住む2歳年上の 幼なじみ	「沖縄に帰れるとの事、ほんとに嬉しいです ね。」とある。
38	はがき	昭和21年1月8日	水俣町葛渡 国民学校	熊本県阿蘇郡波 野村檜木野国民 学校に疎開して いる友人	疎開先での様子。沖縄へ帰れるという内容。 「明けましてお目出たう。その後お変わりも無い かね。どうだ君の所は御馳走だったか。しかし 食べ物皆不足だからな。それよりも沖縄へ帰れ るといふ事だね。それからここも何度と雪が 降ったが、君等の所はどうだい。しかし、もう 一時だ。お互いに頑張りませうね。」
39	はがき	昭和21年1月31日	水俣町葛渡 国民学校	球磨郡川辺聖教 寺に住む叔母	「沖縄に帰られるという話、盛成さんも嬉しい でしょう」とある。
40	絵がはき	昭和21年	鹿児島県出 水郡高尾野 町柴引鶴崎 様方	水俣町葛渡国民 学校で一緒に疎 開していた友人	英語を習っている話。
41	はがき	昭和21年4月11日	鹿児島県出 水郡高尾野 町柴引鶴崎 様方	水俣町葛渡国民 学校で一緒に疎 開していた友人	葛渡で一緒だったときの思い出。
42	はがき	昭和21年4月22日	鹿児島県出 水郡高尾野 町柴引鶴崎 様方	水俣町葛渡国民 学校で一緒に疎 開していた友人	葛渡で一緒だったときの思い出。
43	はがき	昭和21年5月19日受 取	鹿児島県出 水郡高尾野 町柴引鶴崎 様方	水俣町葛渡国民 学校で一緒に疎 開していた友人	葛渡で一緒だったときの思い出。開墾など。
44	はがき	昭和21年5月23日受 取	鹿児島県出 水郡高尾野 町柴引鶴崎 様方	大阪市西淀川区 に住む2歳年上の 幼なじみ	醤油屋の宮城ツル子の住所を尋ねている。 「あこがれの首里城も今頃は怎么样了でせ う。成ちゃんのエを見てほんとに沖縄がなつか しくなりました。」
45	はがき	昭和21年6月25日受 取	鹿児島県出 水郡高尾野 町柴引鶴崎 様方	水俣町葛渡国民 学校で一緒に疎 開していた友人	疎開先での様子。中等学校の生徒が学期試験が あった。開墾場に甘藷作りに行った話。
46	はがき	昭和21年6月30日	鹿児島県出 水郡高尾野 町柴引鶴崎 様方	水俣町葛渡国民 学校で一緒に疎 開していた友人	英語を習っている話。カタカナで方言が書かれ ている。
47	はがき	昭和21年7月1日受 取	鹿児島県出 水郡高尾野 町柴引鶴崎 様方	水俣町葛渡国民 学校で一緒に疎 開していた友人	疎開先での様子。
48	絵がはき	昭和21年7月22日受 取	鹿児島県出 水郡高尾野 町柴引鶴崎 様方	水俣町葛渡国民 学校で一緒に疎 開していた友人	疎開先での様子。
49	はがき	昭和21年7月22日以 降	鹿児島県出 水郡高尾野 町柴引鶴崎 様方	水俣町葛渡国民 学校で一緒に疎 開していた友人	盛成が葛渡国民学校へ来る件と、沖縄へ帰郷す る話。 「早く君がこの寮に来るのをまちかねて居る よ。もういよいよ明日はこちらに来るね。(中 略) 僕らは十月三日に葛渡りを立って鹿児島島に 行って一週間止まって十月十日には鹿児島港を 出航するんだ。」
50	はがき	昭和21年8月17日受 取	鹿児島県出 水郡高尾野 町柴引鶴崎 様方	引率教員と思わ れる。	盛成の帰郷の件。 「東京の沖縄人聯盟本部から疎開学童は卒業生 まで全部一人残らずつれて帰る様にとの通知 がありましたので、あなた方も全部つれてかへ ることにいたします。」とある。

51	はがき	昭和21年8月17日以降	鹿児島県出水郡高尾野町柴引鶴崎様方	引率教員と思われる。	盛成の帰郷についての事務連絡など。 「戦災損益金(?)が九月五日午前九時から水俣町役場で渡りますから取りに来て下さい。学童服とシャツの配給も貰ってきましたからあげませう。(中略)帰還までしっかりお加勢してあげて下さい。」
52	はがき	昭和22年?春ごろ	沖縄県首里市桃原区一斑	鹿児島県鶴崎家での知り合い。インターン生だった。	鶴崎家での思い出。 「近いものなら行来も出来る事でしょうが、九州にもう一度来ないかね?」
53	はがき	昭和22年7月17日	沖縄県首里市桃原区一斑	球磨郡多良木町に住む引1つ年下の友人	沖縄の様子を尋ねている。 「僕の島はどうなって居るか知らせてくれ。今年かへるかもしれないから食糧の事など知らせてくれ。」
54	はがき	昭和22年以降?7月	沖縄県首里市桃原区一斑	球磨郡多良木町に住む引1つ年下の友人	近況と沖縄の様子を尋ねている。 「兄さん達二人ともかへって来たので今家族が七人もなりました。・・・(中略)沖縄の方は水がたらんらしいがほんとかい。食糧は十分あるかしらせてくれ。」
55	はがき	昭和22年以降 秋ごろ	沖縄県首里市儀保町	球磨郡多良木町に住む引1つ年下の友人	「沖縄の事を思うと悲しく成って来るよ。時々沖縄の事も知らせてくれ。」
56	はがき	昭和24年 初秋ごろ	沖縄県首里市儀保区	球磨郡多良木町に住む引1つ年下の友人	沖縄の様子や親戚の消息を尋ねている。 「盛ちゃ君の家族は皆元気かね。それから知らせてくれ又沖縄も前とは大分変わっている事だらうなあ。(中略)それで沖縄の近況とぼくの寒川のおばあちゃんの情報も案じて欲しいんだ。」
57	手紙		首里市儀保町	盛成の兄、糸満盛起	盛成の兄盛起は、戦前ウシの養子に入った。これから南支に派遣されて行くとあり、覚悟して書かれた遺書のような内容となっている。盛起はブーゲンビル島で戦死した。 「此處、暫くは非常に御心配なさる事と思ひます。しかしまた一方から考へると此の重大事局に国家の干城として御國の為、少しながらの働きでも出来る事は家門の誉で有りますから、母上も元気を落す事なく僕の凱旋迄は今と変る元気にさで居られる様祈ります。」
58	手紙	昭和28年1月20日	沖縄県首里市儀保区	兵庫県に住む盛成の叔母。	親戚や、家族の様子や住所を知らせて欲しいという内容。 「遠方の事故、こちらもお気に掛かって居ります。」→何の事故か?
59	手紙	昭和28年2月4日	沖縄県首里市儀保区	兵庫県に住む盛成の叔母。	戦争で親族が多く亡くなった事を知り悲しみ、そして盛成を励ます内容。 「かねて予期してゐたものの悲しい現実となりました。母も姉さんも、兄さん、千代姉さんに子供も、家の者もびっくりし悲しみました。これも憎い戦争の■です。」
60	手紙	昭和28年2月20日		兵庫県に住む親戚	家族の近況と、沖縄戦で多くの親戚が亡くなったことを嘆いている。
61	手紙	昭和28年5月14日	沖縄県首里市儀保区	兵庫県に住む盛成の叔母。	近況。体を崩して入院した話。「色々話したい事も山々有りますが、遠くはなれて居るだけで心に思うだけです。」

62	手紙	昭和28年6月2日	沖縄県首里市儀保区	兵庫県に住む盛成の叔母の息子か？	父親（ツルエの夫？）が亡くなったという連絡。
63	手紙	昭和33年9月23日	那覇市首里大中区一斑	名護英語学校	名護英語学校より予科への合格通知。入学式や、授業料（10月分2ドル）、教科書代、入舎生や間借下宿に関する事務連絡が書かれている。盛成27歳の時。
64	手紙	昭和33年10月1日	沖縄県首里市儀保区	兵庫県に住む盛成の叔母。	親族（儀間のおじさん）の子供が何人で何歳か。また、今沖縄に帰るとしたら往復いくらぐらいかかるのかなどを尋ねている。
65	はがき	昭和33年11月？	沖縄県那覇市首里大町	京都に住む親戚	モーイ親方が糸満と関係あるとして、モーイ親方の資料を集めて欲しいという手紙を送っている。
66	はがき	昭和33年11月？	沖縄県那覇市首里大町	京都に住む親戚	資料No.65の続きのような内容。「左記の質問をオバサンに聞いてください」と、沖縄の風習、民俗的な事をたくさん質問している。
67	手紙	昭和33年ごろ？	沖縄県那覇市首里大町	京都に住む親戚	綱引きで踊る「メーモーイ」についてや、稲穂祭、麦穂祭などで火を焚くかなど、沖縄の民俗的な事についての質問が14つ書かれており、盛成の祖母や老人に聞いて教えて下さい、という内容。
68	年賀はがき	昭和34年1月	沖縄県那覇市首里大町	京都に住む親戚	「名護に栄転したようでよろこんでいます」とある。
69	手紙	昭和54年6月5日	嘉手納町嘉手納	伊野波門中会長	伊野波門中会長より、伊野波門中第5回親睦会の御通知